

K師の重賞本命と見解『中山・中京』

マーチステークス

米国指向の持続力に優れた血統馬が走りやすいレース。

特に好走馬が多いのは、父か母父が
米国型ノーザンダンサー系か米国型ナスルーラ系。

近走で上がり2位以内の末脚を使っている馬も好成績。

500キロを超える大型馬も走りやすいレース。

本命はメイショウハリオ。

父は当レースに相性の良いエーピーインディ系。

母父はダートでもスケールと末脚の伸びを与えるマンハッタンカフェ。

チャンピオンズC勝ち馬テーオーケインズも
母父マンハッタンカフェで父がエーピーインディ系。

2走前もメンバー中2位の上がり。
前々走は上がり最速。近走上がり上位。

500キロを超える大型馬。

高松宮記念

昨年の勝ち馬ダノンスマッシュ、
一昨年の勝ち馬モズスーパーフレア、
3年前の勝ち馬ミスターメロディはいずれも
サンデーサイレンスの血を持たない馬。

そして、いずれも世界のスーパーサイヤー、ストームキャットを持ちます。

本命はロータスランド。

サンデーサイレンスの血を持たない馬。

母父スカットダディは3年前の勝ち馬ミスターメロディの父。

そしてスプリント戦の世界的名種牡馬ストームキャットの系統。

さらに父の母父はシーキングザゴールド。
こちらもドバイの名血ドバイミレニアム、ドバウイの基礎種牡馬。

産駒は日本のスプリンターズSでもマイネルラヴと
シーキングザゴールドが1、2着を独占したことも。

世界の名血が凝縮された血統で、
日本の主流血統が力を発揮しにくい舞台設定も有利。

レシステンシアはダンチヒとノーザンテーストを持つ馬で大型馬。
直線スピードを発揮するサンデー系とは逆方向の配合。
過去4走連対した際の相手馬は、いずれも父非サンデー系。

グレナディアガースもサンデーサイレンスの血を持たない馬。

父フランケルは世界のスーパーサイヤー。

スプリント力や馬力に関してはディープ以上。

母系にはストームキャット。

馬場が乾けば、外差しになる可能性が高いと
読んでいますので、この枠も有利。

滑る馬場は苦手ですが、表面の水分が抜けていれば、
パワーとスピードを発揮できそう。

サリオスは母系にダンチヒ持つ大型馬。
ただ、非サンデー系の馬よりは適性が落ちることと、
外枠有利になった場合は厳しい枠になります。

メイケイエールはディープ系ということと、外枠のコントロールが課題。